

【案】

新潟市地球温暖化対策実行計画
(地域推進版)
—第4期—



2026（令和8）年3月 新潟市



～ ゼロカーボンシティにいがたのロゴマーク ～

特徴的なゼロカーボンシティの「ロ」の文字は、風や土、山や緑、海や川など新潟市の風土を連想させるような図柄を、新潟市の8区のカラーの組み合わせで表現しています。そこには、市全体で一致団結してゼロカーボンシティの実現を目指していこうという意味が込められています。

さらに、私たちの生活のすべての基盤となる自然や環境を表す象徴として、「葉」のシルエットを中心に添え、数字の「2」を新潟市の鳥である「ハクチョウ」に模しました。

「つなぐみらい」は、市全体で一致団結しゼロカーボンシティの実現に挑戦し、未来に生きる私たち、そしてその子どもたちへと、新潟市の豊かな自然や環境を次世代へつないでいくという想いを込めています。

序章

新潟市は、延長距離日本一の大河信濃川と、日本最大級の水量と清流度を誇る阿賀野川の河口に位置し、ラムサール条約湿地の佐潟をはじめとする福島潟や鳥屋野潟、上堰潟などの里潟を有した水辺環境に恵まれた都市です。こうした水辺環境や里山などの自然環境と市街地を包み込むように存在する田畑を含む地域「田園地域」は、本市の大切な資源であり、将来に残すべき財産です。

近年、地球規模の気候変動により平均気温の上昇、気象災害の頻発など、私たちの生存基盤を脅かすような変化が起こっています。本市においても、これまでに経験したことのないような豪雨や猛暑に見舞われることが増え、市民生活や農業をはじめとした産業にも多大な影響を与えています。この危機的状況を認識し、温室効果ガスの排出量を削減するとともに、今後起こりうる被害の回避や軽減を図る適応策についても並行して取組むことが待ったなしの状況となっています。

また、脱炭素への取組を通じて、経済成長や産業競争力の強化を目指す動きが急激に強まっています。国は、2025（令和 7）年 2 月に「地球温暖化対策計画」、「第 7 次エネルギー基本計画」、「GX2040 ビジョン」を同時に閣議決定しました。2035（令和 17）年度、2040（令和 22）年度の温室効果ガスの新たな削減目標と、これに整合する 2040（令和 22）年度のエネルギー需給の見通しを示すとともに、エネルギー安定供給、経済成長、脱炭素の同時実現を図る取組の方向性を具体化しました。

新潟市は、2020（令和 2）年に、2050 年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指すことを表明しています。本計画では、世界や国内の動向などを踏まえ、これまでの温室効果ガス排出量の「中期目標：2030 年度までに 2013 年度比で 50%削減、長期目標：2050 年までに実質ゼロ」に加え、2035（令和 17）年度、2040（令和 22）年度の削減目標を新たに設定しました。また、目指す将来像やまちの姿、目標達成に向けた施策体系などを整理し、市民、事業者、行政の連携・協働のもとで「ゼロカーボンシティにいがた」の実現を目指します。

目 次

第1章 計画改定の背景	1
1 本計画の基本的事項	2
2 地球温暖化と気候変動の動向	5
第2章 新潟市の現状・地域特性と課題	9
1 新潟市の概況	10
2 新潟市の気候の変化と将来予測	12
3 温室効果ガスの排出状況	14
4 温室効果ガス削減に向けた課題	15
第3章 計画の目標	21
1 目指す将来像	22
2 温室効果ガス排出量の削減目標	26
3 再生可能エネルギーに係るゾーニングと導入目標	30
4 2050年ゼロカーボン実現に向けたロードマップ	34
5 取組方針	36
第4章 基本対策と施策	41
1 施策体系	42
2 基本対策と取組	44
3 施策の進捗管理	64
第5章 計画の推進	65
1 計画の推進体制	66

資料編

1 計画改定の経緯	資-2
2 改定組織・市民意見聴取	資-3
3 将来に向けた私たちの取組	資-7
4 温室効果ガス排出量について	資-10
5 気候変動の影響と評価について	資-14
6 用語集	資-16